

のお皿づくり」WS

カプカプでは2011年からワークショップを実施してきまし た。ミロコマチコさんと絵を描いたり何か作ったり。新井英 夫さんたちと踊ったり演奏したり。アサダワタルさんと喋っ たり唄ったり。

その時間がメンバーにとってもスタッフにとっても、とて も大切なものとなり、今ではカプカプという場所には欠かせ ないものとなっています。あまりにステキな時間なので、一

ミロコさんと「カッパ 昨年には厚労省「障害者芸術文化活動普及支 援事業」の全国連絡会議でも、ワークショッ プを用いて成果というより過程こそを楽しむ

大切さについてお話させてもらいました。各地から「とても いいですね!!」というような反響をいただきましたが、あち こちでワークショップが始まるという盛り上がりには至って いません。そこで昨年から、旭区の地域自立支援協議会のお 仲間と、WAM(福祉医療機構)の助成を受け、「障害福祉施 設でのアーティストによるワークショップ定着」事業に取り 組んでいます。



ワカメ、ワカメ。

新井さん(ミコミコカンパニー)やアサダさん(サポートセンター連)にも お力を借り、その他にも区内4か所でさまざまなワークショップを実施してい ます。十代の後半をひきこもっていたなどの自らの経験を舞台にしてきて、 「向田邦子賞」も受けている岩井秀人さんが、精神障害がある人たちが通う 「むくどりの家」で、みなさんの体験を聴いたりその一シーンを演じてみたり してくれています。「活動ホームあさひ」には最近よく劇団員をテレビで見か 「子供鉅人」の主宰の益山貴司さん、「まどか工房」には神奈川芸術劇場 での「デフ・パペットシアター・ひとみ」の演出も手掛けるダンサーの白神も もこさんが入ってくれることで、メンバーさんたち(だけでなくスタッフさん たち) に眠っていた表現力を演劇やダンスからの刺激で、なんだかすごいこと になっています。「ほわほわ」では、先日「岸田國士戯曲賞」に選ばれたばか りの山本卓卓さんが、なんと受賞後第一作「ほわほわのぶりぶり」をメンバー やスタッフと作ってくれています。

各所からは、「魔法の薬のように、すごい変化を生んでいる!」とか「メン バーやスタッフの意外な特徴が見えてきた」とか「演じるこ とは、メンバーにとって初めての経験で、どこまで理解がで きるかは未知数だったけれど、想像していたよりも役になり きれて驚いてます」などの感想が寄せられています。ワーク ショップ以外の日常の雰囲気も変わってきたと、いずれの事 業所からも聞いて、WAM助成の継続申請が通って各所で続け られるとよいなと思っています。(鈴木励滋)

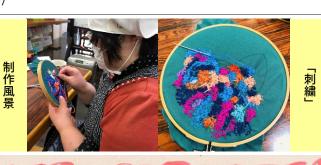


背景画「菜の花」木戸綾香











MASK

コロナ禍での生活の中、すっかり当たり前になってしまったマスク。これまでもインフルエンザの時期には使っていたし、もちろんパウンドケーキやクッキーつく |リの製菓作業中は必須アイテム。でもまさか―年中、しかももう2年以上マスク生活が続くとは思いもよりませんでした。

昨年の春、新しいメンバーさんやスタッフさんをお迎えしたものの、お互いマスクが顔の一部みたいな感じで新年度がスタート。食事中にはマスクを外すけど、マ スクの無い素顔をきちんと見る機会が少ないから、当初は(今でも?)ふとマスクの下はこんな感じなのかなと勝手に想像を膨らませていたものです(って変態っぽ いか…)。

マスク越しでは相手の想いや伝えたいことへの理解が難しいのではといった心配もありましたが、ふたを開けてみると案外分かるものだなぁと少し安堵しました。 話す速さや声のトーンだけでも微妙なニュアンスは伝わってくるし、言葉のコミュニケーションが難しいメンバーさんでも目の動きや顔全体の表情、身体全体で(時 に強引に?)アピールしてくる人もいるので、マスク越しでの生活でもなんとなく日常は回っている、そんな印象です。

それでも、本当の想いをきちんと汲み取っているか、実はヘルプのサインを発していないか、なるべく注意深く見守ってきたつもりです。ところが、何度も緊急事 「熊宣言が発令され、行事やイベント類は軒並み中止。何もしていないのに、バタバタと過ぎ去っていく毎日。振り返ってみると、あっという間の2年間でした。

今日も朝から「○○さん、マスク~!」とマスク警察的なメンバーさんの声が響き渡り、騒々しい毎日の繰り返し。正直なところ「うるさいなぁ」と思いつつも、 毎日変わらずに開所して、通ってくるメンバーさんたちの元気な姿を見ていると、このコロナ禍では恵まれているのかもしれません。

そういえば昔、マスクというタイトルの黄緑色の怪人に変身するコメディ映画がありましたね。マスクには「仮面」という意味もあります。多様性を許容しない、 生きづらい社会において、私たちはいったい何枚のマスクを被っていることでしょう。せめてカプカプ竹山で過ごす間はノーマスクでいたいものです。

(文:海老原克憲、背景画:川崎佐和子)









